

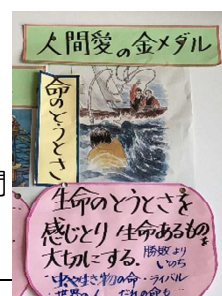
平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 - II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 - III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 - IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 - V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I・V 】
2 実施対象者	一関市立萩荘小学校 4年1組：31人、4年2組：30人 5年1組：30人、5年2組：30人 6年1組：33人、6年2組：33人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（学級活動、体育、道徳） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	1 オリンピック・パラリンピックの歴史や、価値を学び、児童の興味・関心を高める。 2 オリンピアン・パラリンピアンから直接講義や実技指導を受けることで、自己の生き方について考えを深める機会にする。
5 取組内容	1 事前学習に役立てるように、市立図書館から、オリンピック・パラリンピックに関係する本を借り、児童にお薦め図書として紹介した。また、講師の福田正博氏のプロフィール等も校内の掲示板や図書館に掲示した。 2 東京2020大会のマスコット選定をする活動を通して、参加意識を高めるようにした。また、マスコットの役割や過去大会のマスコットを紹介しながら、関心を高めるように努めた。 3 4年生の道徳では、「人間愛の金メダル」という教材を通し、東京オリンピックのこと、選手の努力、生命の尊さについて学んだ。3月には、「羽生結弦選手の教材を通して、道徳的価値『希望と勇気、努力と強い意志』について学ぶ予定。 6年生は、『プロ車椅子テニスプレーヤー国枝慎吾』という教材を通して、パラリンピックのこと、人間としての誇りある生き方、夢や希望のある生き方について学んだ。



4 事業内容：講義・実技

サッカー元日本代表で活躍した福田正博氏を講師に迎え、4・5・6年生を対象にした講演、並びに6年生を対象に実技指導を行っていただいた。

講演では、「サッカーはコーチや監督がいないと試合ができない、それは学校でいったら先生、関わっている全ての人、ものを大切に思う気持ちがフェアプレー精神になります。また、規則正しく生活することで、心と体に余裕が生まれ、それが学習やスポーツへの成果や周りへの感謝の気持ちにつながります。」等、ご自身の体験やエピソードを通してお話していただいた。

講演を聞いた5年生からは、「仲間と助け合うことがすごく大切、笑顔でいろいろなことにチャレンジしていこうと思いました。」と感想が発表された。

また、児童の質問に答え、「ライバルは、三浦知良選手。ライバルをもつことも大事。それが自分の目標につながります。」と教えていただいた。

講演後のアンケートには、「オリンピック・パラリンピックはみんなが真剣に頑張っているから、できるだけどのチームのことも応援をたくさんしたいと思いました。」(4年生)や「東京オリンピック・パラリンピックに限らず、今までは選手だけがメインと考えていました。しかし、見ている側も選手と一緒に戦うことを学び、以前より関心が深まりました。」(6年生)等の記述がみられた。

6年生対象の実技では、6種類のゲームを通して、体を動かす楽しさや、みんなと協力する楽しさや達成感、相手の気持ちを考えることの大切さ、ルールを守ること、フェアプレー等について教えていただいた。

ゲームの内容は下記のとおりです。

- ① ペアで向かい合い、お互いに相手の人差し指を手でおさえ、笛の合図で、自分の指は抜き、ペアの指はおさえる。
- ② ペアで向かい合い、1人がサッカーボールを上にあげ、もう1人がそれをキャッチ。その間に握手をする。
- ③ ペアの1人が足でドリブルをしながら、ペアの後ろをついていく。
- ④ ペアで向かい合い、間にボールを置く。片足を乗せ、リズムよく足を替える。
- ⑤ ペアで向かい合い、間にボールを置く。福田先生が言った体の部位をおさえていく。ボールと言ったら、ペアより早くボールをおさえる。
- ⑥ 8人くらいのグループになり、縦1列に並び、前の人の肩に手を乗せながら、前に進む「だるまさんが転んだ」動いてよいのは、福田先生が持っているボールを放した時だけ。

ゴールラインをグループ全員が通過すればゴールとなり、福田先生がボールを持っているときに動いてしまったら、スタートラインに戻る。動いてしまったの判断は、自分たちで判断する。

男女関係なく、ゲームを楽しむことができていた。福田先生からはゲームをしながら、「ペアのことを考えて」「心を1つにしよう」等、常にアドバイスをいただき、仲間を大切にすること、フェアプレーや協力することの楽しさを伝えていただいた。



6 主な成果	1 ねらい1について 「オリンピック・パラリンピック大会に対する理解・関心が高まったか。」という事後アンケートの結果から、プラス傾向の回答をした児童が、約95%に達した。 2 ねらい2について 児童の感想から「オリンピック・パラリンピアンからの直接講義や実技指導」は、とても強い刺激となり、スポーツへの関心を高めるだけでなく、自分の生き方について考えを深める機会となったのが分かった。 3 本校の研究主題「自己を見つめ、夢や希望がもてる「萩小っ子」をめざして」にかかわり、努力、思いやり等の道徳的価値理解に多面的につながった。 4 市立図書館から、オリンピック・パラリンピックに関係する本を借り、児童にお薦め図書として紹介したり、校内の掲示板に、東京2020大会のマスコットや講師の福田正博氏のプロフィール等を掲示したりしたことで、児童の興味・関心を高めることができた。 5 公共放送や、地元新聞社の報道により、保護者だけでなく、地域の方々にも、学校での取り組みを広く紹介することができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	・本校の研究主題「自己を見つめ、夢や希望がもてる「萩小っ子」をめざして」と関連させながら指導を進めたこと。 ・市立図書館より、たくさんのオリンピック・パラリンピックに関係する本を借り、児童にお薦め図書として紹介したこと。
8主な課題等	・本校の研究主題（道徳）と関連させての指導としたため、オリンピック・パラリンピックそのものについての学ぶ時間や、歴史・価値についての学ぶ時間の確保が難しかった。他教科との関連が課題。 ・講演は4～6年生、実技指導は6年生としたため、低学年への指導が十分にできなかった。 ・本校の研究と関連させると、パラリンピック教育に重点を置いて指導をしようと考えたが、パラリンピック教材「I'm POSSIBLE」を活用できなかった。
9来年度以降 の実施予定	・オリンピック・パラリンピック教育について、教員の共通理解を図る。 ・「I'm POSSIBLE」の活用の仕方研修会と「I'm POSSIBLE」を活用しての授業実施。